



東大阪・八尾・柏原地区

総会と新点数説明会

医療行政改善などの方針

協会の東大阪・八尾・柏原地区は、総会と新点数説明会を12日、東大阪市民会館で開き、68人が参加した。

地区総会では、矢部あづさ理事から07年度の地区活動の総括として、4回の講習会の開催、国保

や医療費助成制度の拡充を目指した自治体要請や、八尾や東大阪での市長選挙への取り組み、住民とのつながりを広げて歯科医院への受診を促す健診・健康教室への取り組み、決算が報告された。

08年度は①地区会員間の交流を深める②他団体との連携を強め、地域の医療行政改善に取り組む③地域住民の健康を守り受診を促す健診・健康教室に取り組み④方針を確実に確認された。

策部から小澤力副理事長が08改定の政策的特徴として、日本経団連や財務省の強力なマイナス改定要望のなか、歯科本体0.42%のプラス改定とさせ、新規技術の保険導入や新しく技術評価させたことは「会員に協力いただいた協会・保団連の運動の成果」とした。しかし前進面一方で、低報酬長期維持管理路線や治療指針の押し付けによる

部地区は合同で12日、新点数説明会をM&Dホールで開き、歯科医師ら102人が参加した。講師は吉田裕志副理事長と安積中理事が務めた。新点数での診療が始まった中で、参加者からは、義管の算定など具体的な質問が多数寄せられ、両氏はテキストや厚労省の通知に基づいて丁寧に回答した。

門奈文石南地区責任者が講習会の冒頭に挨拶し、「小泉構造改革路線による低医療費政策によって相次ぐ医療改善がもたらされ、危機が叫ばれている。今改定では、わ

ずかながらプラス面があったものの、①低点数・包括化②自己責任による安全管理の強化③オンライン化への地ならしの側面——などの問題点を挙げて、協会は、誰もが安心して医療を受けられるよう、また、医療人も十分な医療を提供できる保険医療体系を目指すとして、今後も運動に取り組んでいきたい」と活動への理解と協力を求めた。

吉田氏は、08年改定の特徴として、低点数での長期管理などによって医

療費を削減しようとしていると政府の狙いを指摘、歯科医療を巡る状況について説明した。新点数については、この間多数寄せられた会員からの質問や厚労省の疑義解釈などを反映させて、「08年改定の要点と解説」をテキストに説明した。電子化加算など新たに届出が必要な項目については、記入項目の留意点などを指摘、また、後期高齢者医療制度については、厚労省の通知に基づいて資格確認の必要性を強調した。

安積氏は、新設された歯科疾患管理料や歯周病安定期治療(SPT)などについて、具体的な症例に基づいて算定方法を説明した。



最新疑義解釈を含めた08改定の説明を熱心に聞く参加者=12日、東大阪市内



義管の算定方法について参加者からの質問に答える吉田氏=12日、M&Dホール

部地区は合同で12日、新点数説明会をM&Dホールで開き、歯科医師ら102人が参加した。講師は吉田裕志副理事長と安積中理事が務めた。新点数での診療が始まった中で、参加者からは、義管の算定など具体的な質問が多数寄せられ、両氏はテキストや厚労省の通知に基づいて丁寧に回答した。

門奈文石南地区責任者が講習会の冒頭に挨拶し、「小泉構造改革路線による低医療費政策によって相次ぐ医療改善がもたらされ、危機が叫ばれている。今改定では、わ

ずかながらプラス面があったものの、①低点数・包括化②自己責任による安全管理の強化③オンライン化への地ならしの側面——などの問題点を挙げて、協会は、誰もが安心して医療を受けられるよう、また、医療人も十分な医療を提供できる保険医療体系を目指すとして、今後も運動に取り組んでいきたい」と活動への理解と協力を求めた。

吉田氏は、08年改定の特徴として、低点数での長期管理などによって医

療費を削減しようとしていると政府の狙いを指摘、歯科医療を巡る状況について説明した。新点数については、この間多数寄せられた会員からの質問や厚労省の疑義解釈などを反映させて、「08年改定の要点と解説」をテキストに説明した。電子化加算など新たに届出が必要な項目については、記入項目の留意点などを指摘、また、後期高齢者医療制度については、厚労省の通知に基づいて資格確認の必要性を強調した。

安積氏は、新設された歯科疾患管理料や歯周病安定期治療(SPT)などについて、具体的な症例に基づいて算定方法を説明した。

後期高齢者医療制度 75歳以上のお年寄りだ(65〜74歳の障害のある人も対象)を今の保険から強制的に脱退させ別枠の制度に押し込み、全員から保険料を取り立てる後期高齢者医療制度が4月から始まった。各地の医療機関や自治体の窓口では、新制度をよく知らない人々のト

ブルが続出しており、協会も加盟する大阪社会保険推進協議会が実施した電話相談には、保険料の内容など2日間で160件の相談が寄せられた。15日からは、832万2千件にも上る対象者

の年金からの保険料の天引きも始まった。筆者も送られて来た保険証を見て驚いた。なんと、薄っぺらな通知書の片隅を切り取って保険証とするのである。新制度

うことになる。多くは分離された家族も負担増である②年金からの天引き。介護保険料の天引きも加わって、生活がますます難しくなる③滞納者に対する保険証の取り上

高い人と低い人を一緒にして、安定運営をはかるのが常識である。リスクが高収入の少ない人だけをとめた制度は、そもそも保険ではなく、厚労省が何と奇弁を弄しよ

蓄えた大企業に、ほんのわずかな拠出をさせれば財源問題も解決するはずである。また、世界中で傍若無人に暴れる米国人間性を訴えて、一刻も早く廃止させるよう協会も全力を尽くす。

4月実施の診療報酬改定において医療では、外来管理加算に時間要件が導入され「医師が実際に概ね5分を超えて直接診察を行っている場合に算定」とされた。これは医療費の抑制を

もくろむ厚労省が、再診療の引き下げ見送りの代わりを導入したもので、現場の医師には混乱や怒りが広がっている。これに対して全国保険医団体連合会の住江憲勇会長は9日、岸宏一厚労副大臣と面談し、外来管理加算への時間要件等の導入撤回を求めて要請した。

これは、共産党の小池晃参議院議員の仲介により実現したもので、要請には小池議員も同席した。厚労省からは、原徳壽保険局医療課長が同席。要請の際、厚生労働大臣宛の会員署名4515筆を手渡した。保団連は2日にも、厚労省担当官への要請を行った。

この差別的な医療制度は、戦中・戦後の苦難に耐え、焦土と化した日本をGNP世界第2位の経済大国にした最大の功労者である。膨大な資産を

対象とされたこの世代出すものである。

春夏秋冬

差別的な制度 今すぐ廃止に

医科外来管理加算 5分の時間要件導入 撤回求め保団連が要請

Advertisement for AED (Automated External Defibrillator) with rental and purchase options, contact information for Secom, and a list of participating insurance associations.

Advertisement for 'Sakura House' dental clinic, featuring a house illustration, details about real estate for sale, and contact information.